

## 第2回茅ヶ崎市民文化会館再整備検討協議会 会議録概要

議題	1. 大ホール、小ホールの改修の方向性について 2. その他
日時	平成21年9月24日(木)14時から16時まで
会議開催場所	茅ヶ崎市役所本庁舎7階第3会議室
出席者氏名	白井 精治、和田 千代子、安東 敏晴(代理出席)、川口 寛、松永 耕作、遠藤 まさみ、吹谷 一徳、塚原 康男、丸山 透、杉山 貴子、山内隆徳 事務局15名(文化推進課3名、建築課4名、エイアンドティ建築研究所4名、空間創造研究所1名、永田音響設計1名、学識経験者2名)
会議の公開・非公開	公開
傍聴数	0名
非公開の理由	—

(事務局)

皆さんこんにちは。

お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

これより第二回茅ヶ崎市民文化会館再整備検討協議会を開催させていただきます。

開催に際しまして、私の方から本日の欠席の委員さんを報告いたします。

岩本委員（副会長）、片岡委員、望月委員が欠席でございます。澤委員に関してはあとから遅れて来るのかもしれませんが、なお、望月委員につきましては、代理人の方が出席ということで、中学校を代表して安東先生にお越しいただいております。

また、第一回目の会議の席上で私どもの方から、学識経験者ということで、アドバイザーの方にこの会にご参加していただきたい、ということでお願いいたしまして、ご承認していただいた先生二人に今日お越しいただいております。

(大野アドバイザー)

神奈川県民ホールの大野でございます。よろしくお願いたします。

(本杉アドバイザー)

本杉です。よろしくお願いたします。

(事務局)

それでは、本日の会議の進行につきましては、杉山会長の方にお願いたします。

(杉山会長)

皆さんこんにちは。

本日はお忙しい中ご出席していただきありがとうございます。

ただいまから、第二回茅ヶ崎市民文化会館再整備検討協議会を開催させていただきます。

まずはじめに、前回の会議録であります。皆様お手元にお送りさせていただいていると思いますが、特に訂正等の申し出などをいただいておりますが、ご訂正はなし。ということですのでよろしいでしょうか。

(一同異議なし)

(杉山会長)

では、訂正なしということでいかせていただきます。ありがとうございます。

それでは、早速ですが議題へ入ります。

本日の議題1。『大ホール、小ホールの改修の方向性について』を議題といたします。

事務局より説明をお願いいたします。

(A&T 建築研究所)

こんにちは。A&T 建築研究所の三浦と申します。

本日は大ホール、小ホールの改修の案をご説明ということで、お手元に A4 折込の資料。大ホールの改修案、小ホールの改修案、椅子の検討資料がはいっております。資料と同じものがプロジェクターで用意してありますので、プロジェクターの方で説明させていただきます。

(A&T 建築研究所説明 (プロジェクター使用))

1. 構成、協議会の流れについて。
  2. 大ホール案についての説明。Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ.Ⅳ.Ⅴについて
- ※Ⅱの音響説明時に永田音響設計の説明あり。

(杉山会長)

ありがとうございました。A&T 建築研究所さんから説明をいただきました。大ホール・小ホール改修の案と目的、その影響についてお話をいただきました。

それでは、大ホール・小ホールに分けて皆様からご質疑いただきたいと思います。

まず、大ホールについてお聞きしたいと思います。何かご質疑等ございましたら。

(白井委員)

ご説明ありがとうございました。一つ残念と思ったのは、大ホールにしても小ホールにしても言えることなのですが、身障者の席の話が無かったことが残念だなと思いました。身障者と申してもいろいろな方がいると思うのですが、せめて車椅子の方が入れる座席というものを将来考えていただきたいと思います。アンケートにバリアフリーの事があるのですが回答が無いんですね。残念だと思っていますが、アンケートがどのように行なわれたかわからないのですが、そのような事が少し気になった部分であります。

今、座席の話も出ましたので、大ホール・小ホール含めて車椅子対応の座席を確保していただきたいと思います。

(杉山会長)

ありがとうございます。

(塚原委員)

車椅子の場所の話ですと、大変失礼な言い方なのですが、車椅子のスペースのあるところは、いろいろあると思いますが、大ホールの中で一番音が悪いところであります。一応あ

の時代ですから、車椅子のスペースを作ったということだと私も理解しておりますが、中には熱心な方で、車椅子であそこにいらっしゃるという方がいるんですね。相模原のグリーンホールに行ったときに車椅子の位置が、14列目と15列目の間にかなり広く取られてました。あの時は、車椅子のために椅子をはずしてあったのかもしれないですが。それで、身障者の方が大変な思いをしてまで来るということで、せめてもう少しましな場所を考えていただきたい。私常日頃から思っております。ですから、そのところが解決すればよいと考えております。

(杉山会長)

ありがとうございます。

他に何かありますか？

(川口委員)

車椅子のことについてお話いただいたんですが、私ども車椅子で大ホールに入ると、一番後ろの席しかないんですね。せめて、真ん中あたりに行きたいと思っております。小ホールは逆に一番前の席をはずして一番音響のいいところに場所が確保してあっていいんですが。その辺をユニバーサルデザインで誰でもいい音が聞けるような、ものを見れるような設計にしていきたいなと思っております。

それで、この大ホールは音楽を見たり聞いたり、または出し物をステージの上から発表したりといろいろやってきましたが、やっぱり30年も前の話ですから、そのへんの車椅子のこととかその他のことについて考えられていなかったのもありますが。たとえば、大ホールに行く装置でエレベーターで真ん中あたりまでいけるような装置ですとか、小ホールの方も前の座席に行こうと思ったら、その事務所の横にあるトイレの所からずっと長いところを渡って行って初めて大ホールのところに着く。それもちよつと長いスロープを上がっていくっていうのは、多分お年寄りやなんかで車いす使うような人たちは、たぶん自分で車輪を回していくっていうのはちよつと大変なんじゃないか。できたら、エレベーターかなんかでせめて半分くらいのところに行くようにしてほしいと思います。

(A&T 建築研究所)

今の車いすのお話ですが、次々回の協議会でユニバーサルデザインについてご説明しようと思っておりましたので、あまり細かく説明しませんでした。私共も、各所でホールを設計しておりますが、なるべく平場があるところで、人の出入りの容易なところに考慮いたします。今回は、非常に苦勞しております。というのは、内部を使われていておわかりかとは思いますが、左右側部に廊下がございますけど、階段だらけで車いすの方が前にいく通路の確保が難しく、現在のところ客席のレイアウトの検討の中では、やはり同じ位置に少し拡大するという方向で検討させていただいています。更に既存建物の改修ということで、

構造的な判断があるということをご理解ください。

(白井委員)

もうひとつ、私もですね通路が非常に厳しい状況にあるんですが、そこにトイレがありますよね。それがまた階段で降りてまた上がっていき、それがひとつまたトイレの回遊性だけじゃなくて、また難しい話だと思うんですが、トイレがまた降りたり上がったりのトイレで、やはりお年寄りには厳しいかなって思います。

(大野アドバイザー)

ちょっと参考までに申し上げます。実際の館を運営してましてですね、バリアフリーの問題ってやはり一番大きな問題なんです。われわれ大変苦労してます。われわれの会館もやはり 30 年前の設計ですから、バリアフリー対策が非常に手薄です。どうやっていますかといいますとね、例えば車いす席を再三変更しています。なぜかっていうと、その都度問題が起きる、最初は車いす対応としていざっていう時には、真っ先に外に出られる一番近いところでないと危険なわけです。そういったことで、ドアが一番近いところでまず逃げやすいところ。介護がなくても出られるところ。という位置じゃないと具合が悪いわけです。それとですね、先ほどお話があったように、スロープで行けないとダメなんです。そうすると、かつての構造だと階段が非常に多い。こちらも階段が非常に多いです。そうしますと、スロープをつけるってことは構造的にかなり無理がある。これもできない。そうしますとですね、客席が前が無理なら後ろに持ってくればいいかなと思います。後ろの場合は、クラシックの場合スタンディングするお客さんはあまりいらっしゃらないんですけど、今の若い人は全部スタンディングしちゃうわけです。そうすると、前がみんな立ちちゃうから車いすの人が見えないっていうクレームがつくんです。それで、その位置を最初はですねスロープを前にしつらえることができましたので、前の扉に近い両サイドのところの椅子を可動式にして、そこに、いざってときは車いすを置けるようにしたんです。ところがですね、そこに置きますと、車いすの高さは普通のいすの高さより高いんです。そこに置きますと後ろのお客様が全部クレームが来ちゃうわけです。後ろにずっとつながりますからね。これはやっぱりまずいということで今度は一番後ろにもってきたわけです。一番後ろに持っていくと前のお客さんがスタンディングすると前が全然見えないとクレームがつくわけです。そういったわけで、一番後ろで、一段高くして前のお客さんがスタンディングしてもいいような設えにしないといけない。これは構造的にある程度可能性があるんじゃないか、これは技術的な検討のときに再三提案させていただいて、いろいろ考えてくださってます。でもそれは、そういう事情があって非常に難しいということ。車いすの方が真ん中でお聞きになりたいっていうけど避難経路のことなどを考えると簡単にはいきません。やっぱり、安全第一にしないといけないからすばやく逃げれる位置に設置しなければならないということがあります。だから、そういうことも含めて、安全面も考えな

がらやると、なかなか全てのお客の要望に応えられるかという、大変難しいと思う。でも、その中で構造で一番いいところはどこかっていうと、いろいろご苦労なさっているということをご報告いたします。それからですね、トイレの事なんですけども、こちらの案で一番よかったなと思うのは、ここには出ていませんけど、ロビーの空間スペースへ新しく少しでも設置するというご提案があって、それはぜひともやっていただきたいと思います。つまりフラットなところで、いかにつくっていただけるかっていうことがございまして、どのようにつめられるか分かりませんが、このような提案があったということをご報告しておきます。

(杉山会長)

毎日、お客様をご案内する立場から言わせていただきます。今の車いすのお客様なんです、大ホールのところ図の7'の上手向かって右の方ですね。7'の横にドアがあり、その非常用の出口と言うことでもう外の県道につながっているこのドアがありまして、その外からご不便をかけてしまうんですけど、外からご案内、非常口入って7'の扉を入れて、上手の二列目、三列目、四列目の一番端の端というか、一番通路に面したところからご案内というケースもありますので、そういった形で、階段の多い廊下を使わないで周りのほうにもお客様をご案内できるようにしていくこともありますので、考えていただくと嬉しいかなと思いました。

(川口委員)

素人考えなんです。普通の家庭でも二階に行くのにいすでも座ってスイッチ入れて二階に上がっていくエスカレーター見たいのありますね。あなたの述べた、こういう車いすごと上がるものはエレベーターを設置するよりも安いんですね。廊下の階段の奈落に落ちるようなあの空間につくれないか。

(杉山会長)

よく駅とかにあるものですよ。車いすバリアフリーに関して、ご意見が出ましたのでよろしく願いいたします。そのほか何かございますでしょうか。

(松永委員)

いまちょっと話題に上がったのかもしれませんが、出演する人たちの楽屋が少ない、それから狭いということもずいぶん聞くんですが。それは、いまの中では検討しているんですか。何にも無しなんですか。

(杉山会長)

楽屋に関しては、また別の機会ということで、設けさせていただきます。お願いいたします。

(吹谷委員)

客席の数を何とか作るといって、あそこ削る、ここを削ると言っているんですけど、席自体のサイズがご説明にもあったんですけど、芯芯間隔の問題だと思うんですけどよね。例えば、厚みですとかそういったもので、スペースで稼げる設計は考えているんですか。芯芯の話しか目立ってこないんで、その辺はどうなんでしょうか。

(杉山会長)

はい。事務局の方お願いします。  
芯芯というのはなんでしょうか。

(吹谷委員)

芯芯間隔って言うのは寸法線ですね。寸法線間隔一個単位的位置では表されているんですけどね。例えば背もたれの厚みがありますよね、肘掛にしても幅がありますよね。そういう間隔はどう考えているんですか。

それだけで、広さの感じ方が違うと思うんですよ。そうすると席の数がひとつでも多く、一列でも多く取れるのかな。

(本杉アドバイザー)

まだ具体的に決めてないです。最初の検討段階では大きな枠組みをまず考えて、それで何席入ると検討しているところで、おっしゃるとおりこのようなパイプ椅子と5cmのクッションのついたものとは当然違います。この傾きが直角に降りている椅子と斜めになっている椅子とも違います。前後間隔を93センチというなかで有効に使っていくためには、薄いほうがいい。けれども、薄くしていけば、座り心地の問題がありますから、それをどうするか。幅に関しては、非常に物理的な問題で、となりの人とぶつからない肩幅のサイズはいくつなのかです。これから具体的にどのような椅子のデザインにするのかというのを考えていくんですが、ひとつ重要なのは避難することも考えて、座面が上がった状態の椅子と椅子の有効前後間隔を考えることです。手摺の形状ですとか、座面の上がり上がったときの状態、その辺も合わせて検討していったら、有効な寸法とデザインを決めていくことになります。

(吹谷委員)

今の話で、まさにそうだと思うんですが、どっちが先かというのを。何度も何度も席数を確保するというをおっしゃっているんで、この寸法でこれだったら席数いくつになる

っていうのをまず見極めるのが先であって、それからどこを削るとかが出てくると思うんですよね。話を聞いているとその逆で、このデザインだったらこの席でみたいな、この座席設計検討がちょっと楽になるみたいのが言葉の裏に聞こえる気がするんですよ。やっぱ違って、この席設計だったらこの席を確保するみたいな、それで、それでも足りないからどう削るかっていうのが出てくるのではないのでしょうか。

(A&T 建築研究所)

あの、先ほどご説明はしていないんですが、490 の間口で、前後 930 ということで実際にレイアウトはしております。大ホールで 1300 席ちょっと、ということで 80 席近く減ってしまうということ、小ホールでも一割近く減ってしまうということで、いくら客席の性能を向上させるといってもプロポーザルの要綱でもなるべく確保ということがございました。やはり 80 いくつかの席が減るというのは良くないことですので、2 階のバルコニーを伸ばす考えなどいろいろと検討しておりますが、コストの面や、構造的な理由などがあります。座席数がある程度確保するために花道や、舞台鼻を整理させていただきたいと考えています。それでもまだ不足とあれば、先ほどのバルコニーをどうするかなどの検討に入りたいと思っております。

(松永委員)

今日話を聞いていると、現状のままで修復工事は成り立つと。現状から舞台は少し大きくなるとは聞いたんですが、やはりこのホールの舞台は奥行きが狭いということで、広くしてほしいという意見が昔からでております。たとえば、小ホールには袖がないということで不便だという意見が非常に多くています。今日の課題のホールですが、今のままをそのまま耐震改修してきれいにするだけでなく、せっかくやるのだからもっと思い切り、予算の問題がありますが、できないものか。

(杉山会長)

確か文団協さんの方からご要望いただいている中に、小ホールの袖がないことと、大ホールの舞台の奥行きがないということがあったかと思うんですけども、その辺の基本的な考え方というものはまだですよね？

(本杉アドバイザー)

どこを優先するかですかね。コスト面で、舞台は非常に高いものですね。仮に 1m 奥行きをとるにしても非常にお金がかかってしまう。そちらをどうしてもということであれば、他を抑えてすることは可能ではあります。いろいろな要望がある中で、優先順位としてどこなのかということだと思います。行う催しとのバランスで判断した方がよいと思いますが。



(松永委員)

今日の話聞いてみると、大体決まっているような気がして、話しやすいほうに進んでいる気がするんですがそうではないんですか。

(大野アドバイザー)

今本杉先生がおっしゃったとおりですね、構造体そのものは基本的に動かさないだろう。それをいじるとなると予算的に、半分以上とられると。構造そのものを動かすわけですから。新しく造るに等しいぐらいのお金と力がかかると。ですから、他のバリアフリーやなにやら、すべてできなくなってしまうということにせざるを得ない。それで、それでもよろしいのでしょうか？ということですね。

ただ、それがどれくらい必要性があるのか。舞台は広い方がいいに決まっているんですけど、それをやったために他のものが手付かずになってしまうというような事態になったときに価値判断をどこにするかということだと思います。

(遠藤委員)

建築学については私たちわかりませんが、例えば、子どもたちがお芝居をするときに袖がなくて、セットも置くことができないし、人と人がぶつかって非常に危険なんですよね。例えば、袖を構造を変えなくてもステージをスッキリすることは可能ですか？

(本杉アドバイザー)

今現状の小ホールで客席数を減らしてもいいということであれば多少広くすることは可能です。

(遠藤委員)

客席を減らすんですか？

(舞台の大きさについて本杉先生がプロジェクターで説明)

(本杉アドバイザー)

プロセアムの間口を決定している部分と構造一致している場合は、動かしようはありませんが、小ホールの場合は構造体とは別の位置にプロセニアムが設けられているわけで、ここまでは舞台を広げることは可能だと思います。それは構造上難しくありません。ですが前一行が完全になくなってしまう。

(遠藤委員)

そうなんです。

(本杉アドバイザー)

その場合、完全に最前列一列ちょっと減るということですね。ただこの壁（舞台の後ろの壁）を何mか後退させるというのは、一般の改修工事ではありえない。壊してやるには金額が大きくなってしまいますから。1m、5m下げるといのは大して金額に差ありませんが、壊してやるのと残したままやるかというのは非常に難しい問題です。壊すとなると、その後どうつなげるの？工事中地震がきたらどうなるの？ということがあって非常に大変です。壁や柱が残ったままですから、そこにはバトンなどがつけられないというような障害がでます。それでもやるのかということです。こういった大規模なものになると難しいことですね。木造の住宅であればそうではないんですが。これだけ大規模になると難しい。

(舞台の大きさについて A&T 建築研究所三浦がプロジェクターで説明)

(A&T 建築研究所)

補足であります、私どもプロポーザルで選考されたわけですけれども、当初、茅ヶ崎市さんの方でまったく建て直すのか、今回のホールをこのままりニューアルにするのか。ということいろいろスタディーを含めて検討なさったそうで、その結果、親しまれている市民ホールということで現状のホールを耐震補強するという方向で決まったということです。

そういった中で、先ほど本杉先生からお話ありましたが、基本的に改修となりますと、現状の骨格、柱・梁・壁のラインをいじるとですね、建物全体がおかしくなってしまうでしょうもなくなってしまいます。技術的には可能であります、ただ費用が莫大なものになってしまうということで、今回の目的は限られた予算の中で何を重視して、どこまで使い勝手を良くできるかということの中で、いろいろご要望をいただいておりますが、骨格をいじることが非常に厳しいということをご理解していただきたい。

大ホールに関しては、ここが搬入口になっていて現状荷物が多く置かれている中で、倉庫ですとか、ピアノ庫などをどうにかしてその部分を広くできないか等は検討しております。

(遠藤委員)

はい。文団協としましては、様々なジャンルに対応した設計を行います。ということだったので、今の状態だとピアノの発表会などで一人ずつ出るのを待って出て行くという状態なので、出来ればそのような会に対応できる設計をお願いしたいと思います。

(杉山会長)

はい。ありがとうございます。

(事務局)

今、いろいろご議論されているところですが、まず大ホール・小ホールの改修の方向性に関してのことですので、それに絞って皆様のご意見をいただこうと思っております。その後、その他のところで、前回や以前にご要望いただいた件に対応しようということで、準備をしておりますので、この際分類しないでご要望の回答のところも含めて説明をいただいた中で全体で議論していただいておりますでしょうか？

(杉山会長)

そうですね。はい。

前回、文団協さんと茅ヶ崎交響楽団さんの方から頂戴した要望についてのご回答ということでお手元にあるかと思えます。今回に関する大ホール・小ホールに対する回答をいただいておりますので、それも含めてということで進めていただくというような形でもよろしいでしょうか？

(一同同意)

(A&T 建築研究所)

それでは、こちらの方で進めてもよろしいですか？

(杉山会長)

はい。それでは A&T 建築研究所さんよろしく申し上げます。  
大きい図面をご用意していただいているので集まりますか？

(一同同意)

(紙図面による説明と要望の返答開始)

(A&T 建築研究所)

それでは、事前に利用者団体からいただいたご要望事項について回答や検討含めて図面等を使ってご説明させていただきたいので準備の方をすすめさせていただきたいと思えます。それでは、最後のページになりますが 1 番大ホールであります。

1 番 大ホール

(質問)

文団協さんからのご要望事項。「緞帳線より奥行き 5 間の舞台使用が出来るよう、大ホリを中ホリ幕の位置まで下げる。」

(回答)

ちょっと意味がわかりませんが、現在中ホリから緞帳まで約 5 間。その後ろに大ホリから緞帳までが 7.5 間あるという状況です。大ホリから中ホリまで下げるといふご要望の意味が少しわからないのですが。

(遠藤委員)

はい。たぶん舞台を大きく使いたいのだと思います。質問の意味を確認します。

(A&T 建築研究所)

2 番 大ホール

(質問)

舞台袖等の照明を使用者の点滅自在になるよう改良してほしい。小ホールは素人が操作出来るよう袖に簡易操作盤を設置してほしい。

(回答)

照明は当然舞台袖の作業灯ですとか、周りの照明は改修させていただきます。

3 番 大ホール・小ホール

(質問)

側板の奥を 8 間開きとし、更に奥 1 間半に手動開閉可能な扉を設ける。(山台出入りのため)

(回答)

(図面を見ながら検討)

意図としては反射板の奥の幅を拡幅したいということですか？質問の内容の確認をお願いしたい。

4 番 大ホール・小ホール

(質問)

舞台の袖を含め狭い。特に小ホールは狭すぎる。音楽以外のイベントに対応していない。

(回答)

先ほどご説明しましたように、大ホール・小ホール共に構造体を動かすことは出来ませんが、大ホールは倉庫などを整理してなるべく広く使えるスペースを確保し、先ほど大ホールは舞台装置を電動化するという事なので、今の手綱がなくなり、スペースが確保しやすいのでまだいいんですが、小ホールはかなり厳しいという状況であります。

(遠藤委員)

やはり小ホールは厳しいのでしょうか？

(本杉アドバイザー)

そうですね。先ほどもいいましたが、技術的には可能ですが客席数の問題をどうするかということですね。

(A&T 建築研究所)

先ほど本杉先生がおっしゃっていませんでしたが、舞台を前に出すということは、吊物がすべて変わる。そうすると舞台機構や音響、照明など既存のままでいいところまで手を入れなければならないことになってしまいます。

(事務局)

事務局としても厳しいかなと。最初の説明にありましたように舞台機構については予算的に厳しい部分ではありますので、大ホールに関しては、なるべくすべて電動化というような中で集中的に行なって、その他の予算をいろいろな要望の中でやりたいことをするという。バリアフリーの関係や、練習室の関係、楽屋などいろいろな要望にやりたいところを手をつけるということは、小ホールについては、大ホールと多少差をつけるという気持ちでないと予算的になかなか厳しいかなと。判っていたところです。

そういったことを含めて、舞台機構をすべてやり直すということは厳しいんだろうなというのは想定できますね。そういった中で、小ホールの方の舞台機構というのは既存のものを利用しながら重たいものは電動化していこうという方針なので、なかなかその辺が厳しいところではあります。あと、もう一つは事務局の方の考えでは、座席数を 1400 席と 400 席というのはなるべく確保したいということなんですけど、最初の方針もございまして、座席が広がる分をうまくして座席数を確保できないかということもありますので、その辺は先ほどアドバイザーの話にもありましたように、何を重要視するかというウェイトの問題にかかってくると思いますが、今の方針としては述べさせていただいたとおりでございます。

(遠藤委員)

0 ではない？

(事務局)

0 ではないです。あくまで一つの考えですので。協議会をしていく上で、座席数を減らして違ったところにウェイトをかけるという方針が出ればそれも一つの考え方でありまして、皆さんが同じ方針で向かう分にはそれはいいことだと思います。この辺は検討する価値はありますので、探っていくことは行なっていきます。

(A&T 建築研究所)

皆さんが集まってどこかで方針を決めなければならないので、その一つの題材として出来るだけ対応していきます。

5 番 大ホール・小ホール

(質問)

障害者が舞台に立てるような設備がない。

(回答)

楽屋を含めバリアフリー化を計画する予定です。今後の協議の中で検討したいと考えております。次回にでも楽屋などの説明をさせていただきたいと思います。

これにつきましても、質問の意味を二つ解釈できてですね、客席の方から舞台に上がりたいのか、それとも出演者としてなのか。出演者側として具体的に使用する設備はないのか。その設備は舞台設備の話なのか。そのあたりを教えていただきたいのですが。

(遠藤委員)

出演者としてでは？

(A&T 建築研究所)

出演者としては、楽屋とかトイレとかですか？

(遠藤委員)

そうですね、各部屋をつないでる段差とか、楽屋のアプローチのあたりですね。

(A&T 建築研究所)

わかりました。ありがとうございます。

6 番 大ホール・小ホール

(質問)

音楽コンサート以外にも様々なジャンルの方が使いやすいよう見直しを。

(回答)

基本的には改修する中で、多機能ホールとして、様々なジャンルにも十分配慮した設計を行います。

様々なジャンルの方が使いやすいというのは先ほどのホールの大きさの問題ですか？

(遠藤委員)

はい。狭いとか。

(A&T 建築研究所)

狭いというのは説明のとおりですが、その他の対応等のことに関しては検討していきたいと思います。

7 番 大ホール・小ホール

(質問)

座席を大きく千鳥配置に。

(回答)

座席の大きさについては先ほどの説明の通りでして、千鳥配置に関しては段床部分に関しては特に考えておりません。平土間のところの頭が重なるところに関しては、千鳥配置を考えていましたので、対応いたします。

8 番 小ホール

(質問)

小ホールの音響が良くないので改善を。

(回答)

現状を把握した上で、使い勝手に十分に配慮した設計を行います。

先ほどの、現況の測定結果の残響のはなしではないですが、現在の 0.9 という中で現状からの改善を改修するにあたって設計を行います。

(永田音響設計)

音響が良くないというのは、響きが短いのか？それとも舞台上での演奏者が演奏しにくいのか？客席側で聞いていて音が来ない感じなのか？どのような感じがするのかということをお聞きいただくと今度の設計に反映できるのでありがたいのですが。

(遠藤委員)

様々なケースなんです。

(大野アドバイザー)

あの、よろしいですか？これは、6 番に書いておりますが音楽コンサート以外にも様々なジャンルの方が使いやすいようにとありますが、これはご承知のとおり残響はですね、音楽のコンサートに対応すると、芝居の台詞は響きすぎて聞こえないわけです。相反する要素

があるわけですから、これをどこで接点をつけるか。これはやはりいろいろな方がお使いになるから、必ずしもコンサートだけではない。コンサートでも許容範囲内で芝居の台詞のことも考えなければならない。これの接点を見つけるというのが、皆様のご要望の中で考えていただきたいと思います。

(永田音響設計)

あと大ホールのほうなんですけど、音響がいいとおっしゃっているんですけど、どこがいいのか？ということも聞きたい。もっと良くしてほしいこともきっとあると思うんですね。それを、言っていただけるとですね、どこまで出来るかわかりませんが、その方向に向かってはがんばれるので。

(吹谷委員)

ちょっといいですか？私はオーケストラなんですけど、二階席とか後ろの席は非常にバランスがいいんですけど、前の舞台をあげて演奏会をやったことがあるんですけど、そうするとやはり音が前にでてきて通ります。その分座席は減りますが。そういうところの感じを一階席にもということですか？

(永田音響設計)

はい。そういう具体的なお話をお聞きしたいですね。良いところも悪いところもあるので、今はここが良い。ここが悪い。というご希望をいただけると私たちが判断することも可能ですので。

(A&T 建築研究所)

一般的にVIP席をつくる位置は、実は音響が一番悪いんですよ。

(塚原委員)

あそこで外国のオーケストラが来たときがありましたが、あの時は大ホールのオーケストラピットをすべてステージのレベルまで上げて、弦楽器がそこに並んだのですが、音量的に他のパートより弱く聞こえました。でも、ステージに並べて花も含め、見た目も壮観でした。それで、どこのホールにも言えることが、二階席だと他のブラスや打楽器は大きくなる。そのときの難壇によりますが、木管楽器の音が難しいんですね。それで実は、長いこと文化会館で音作りをされていた方がいらしたんですけど、私どもがフランスの国立の交響楽団を呼んだときに、友達を呼んで聞かせたんですけど、「こんなすごい音響がするとは思わなかった」と。

改修時に私が一番困るのは、音がねじくれてしまうこと。セパレーションなんかがなくなってしまう。サントリーホールなんかは、小さい音はきれいなんです。しかし、音が重な



ってくると団子になってしまう。それは席によって違うと思います。

ハンガリーのバルトーク弦楽四重奏団を招いたときは、リハーサルに出たメンバーが、弾き始めたと思ったら、手を止めてキョロキョロ見回しているのです。何が気になったのかと後で訊いたら、「このホールは響きがすばらしいので、ちょっとびっくりして」ということでした。

私どもの鑑賞団体の楽友協会の第1回演奏会に、ピアニストの園田高弘さんを招きました。「このステージは足元が非常にソリッドで余計な共鳴がなく、自分の弾いた音がパーッとホール内に広がっていくのが感じられて、とても気持ち良く弾けました」と終演後に話してくださいました。

ただ、そのころ町の人に聞くと「新しいホールは音が良くないね」というんですね。つまり、PAを使って音がワンワンになってしまう。ミキサーさんが調整すれば、それほどひどいことにならないとのことですが、とにかくオーケストラと合唱団とソリストの6人ぐらいのアイダをチェコのプルーノ歌劇場で聞いたんですが、フォルツェシモがあんなにきれいに聞こえるなんて、私はびっくりしたんですが、とにかく室内楽とかオケとか非常に素質いい音、ですから良い音を。フランスの60奏団が来て室内楽をやったときフランスらしい管楽器の独特の音が見事に聞こえた。ですから、非常にここで演奏する方の出す音をそのままに届けてくる。

先ほどのアンドレ・ナヴァラリサイタルのチェロー本でピアノの伴奏で音を聞いていたんですが、1階最後列は音が少しつまつたと同時に音量が低く、ここへ来ると音量が一番大きくなって混ざっちゃうんですね。

大体2階のここら辺は少し高い音の抜けが悪いのかなと。耳の良い方がおっしゃっていました。ですから、とにかくその辺が良いと思うか、先の方に音がいつても良いのか。その方次第ですね。いい音というのは非常に難しいんです。

(松永委員)

さっきの塚原委員との意見と違うんですが、今回ほとんどこっち側が完売しているとのことなんですが、やっぱり観客の方もある程度わかっているんですかね？

(吹谷委員)

やっぱりそうですかね。

(松永委員)

今回良いところは空いているけどこっち側が売れてしまっているんですね。

(吹谷委員)

値段もありますかね。

(松永委員)

もちろん値段は違いますが、そういうこともいえるのではないかとも思えるんですが。

(塚原委員)

文化会館の場合は、マイクロフォンを上手に使わなければならない。ホール内で、拡声をなさるときには、再生スピーカーの数が大切なんです。現状もそうですが、いくつぐらいを考えておいでなのでしょうか。

少ないスピーカーで音量を上げますと、大体だめなんです。明瞭度がひどく悪くなりまして。高校の教室でも、正面の中央に1個だけのスピーカーが普通でしたけれど、それを2個に増やしますと、ずっと聞き取りやすくなります。

体育館内やグラウンドでも、音量を欲張らないで数多くのスピーカーを使いますと、非常にソフトで聞きやすい効果が得られます。

そういうこともありますから、会館のホール内でも拡声器として使う場合のスピーカーはなるべく数を増やしておいていただきたいと思います。

それと、1階座席の両サイドのところは、それぞれ壁面にぴったり付いていて、人の通れる隙間がないのが問題です。今度椅子が大きくなるということで多少ゆとりが取れるかもしれませんが、正直言ってお客さんに一番の席と言いがたい。だから、小ホールのほうがこれぐらい取れてないですから、何かで急いで外にでるときも多分ここに通路が壁際にあつたら、もっとスムーズに出られると思ってるんですが。ただ、先ほどからのお話ですと1400席をなるべく保持するという方向が決まっていらっしゃるということですので、言うか迷ったんですが、出来ることなら通路をつくっていただけるといいかなと。それとどんなところでも行き易くすると席数が減ります。必ず。それは当然のこととして受け取っていただきたいなと。席数の事についてだいたい決まってるみたいでそれはそれでいいんですが、もし改善の余地があるならばどんなに減ったとしても考えた方がいいかなと。

(杉山会長)

ありがとうございます。

(A&T 建築研究所)

8番の小ホールの音響が良くないので改善をとということにつきましては、今のご意見を基に検討させていただきます。

9番 大ホール・小ホール

(質問)

映像文化時代であり、将来的にも更に発展すると考える、VHSのテープしかない現状は時

代遅れである。DVD、ブルーレイ等の施設、装置、パソコン制御等は最低限導入すべきである。

(回答)

音響を改修しますのでデジタル化。映像の方はどちらかというとプロジェクター。後はパソコン等を舞台から操作できるように計画いたします。

#### 10 番 小ホール

(質問)

小ホールの場合、ロビーから楽屋裏に行く通路が階段の上り下りで、非常に大変です。高齢者の場合には特につらいので、スロープにするなり、平らな通路にして欲しい。楽屋(和室)を今の4倍の広さを希望します。

(回答)

楽屋、その他のバリアフリー化のところでご説明しますが、可能な限りで対応いたします。また常備品などを含めて有効利用を検討します。

あちらをとればこちらをとらないという話が出てくると思うので、それはまた、ご提案ご説明させていただきたいと思っております。

#### 11 番 小ホール

(質問)

小ホールにエレベーターで直接いけるよう会場から楽屋への連絡を良くしてほしい。

(回答)

内容が不明。

これはロビーからメインのホワイエまでということですか？

(遠藤委員)

会員が何千人もおりますので。確認します。

(A&T 建築研究所)

お願いいたします。

#### 第12 大ホール

(質問)

舞台奥行きを拡張し、第九演奏時の合唱団もひな壇上で椅子に座れるだけのスペースをとる。

(回答)

音響反射板の奥行きを大きくするだけでなく、オーケストラピットを活用し、前舞台を広くすることでの対応も検討しています。と書いてありますけれども、先ほどからご説明させていただいてるように、構造躯体を壊すということは現実的に出来ないという中で、出来ることとか出来ないことを含めて検討させていただくということでございます。そのへんですね、側反とかいろいろありますが、実際は上まで納まる寸法があるかどうかを確認しながら検討させていただきます。

### 13 番 大ホール・小ホール

(質問)

舞台両サイドの反射板を両方の舞台袖まで延長する。

(回答)

先程ご説明してますように、今回の改修で対応します。

(遠藤委員)

音響的に反射板とプロセニウム開口をつなげるということですか？

(A&T 建築研究所)

音響のプロの方がシミュレーションをかけてどのような角度でということは考えます。ですから反射板の角度が変わるということでございます。

反射板の間口はプロセニアムの開口より狭くなるということですね。

### 14 番 大ホール

(質問)

母子室は現状を維持する。

(回答)

ここは今一つ一つが独立した椅子なんですけど、これをベンチシートにかえるということとですね、改修するにあたって舞台操作性などありまして調整室の位置のこともありますのでこの件に関しましては、そのようにご理解していただきたい。

(吹谷委員)

このスペースは絶対必要なスペースなんですか？

(A&T 建築研究所)

他に適切なスペースがありません。

(吹谷委員)

実際に操作する機械はこっちにあって、実際に動く機械こっちの方にあるということですか？

(A&T 建築研究所)

操作部だけ設置します。

(吹谷委員)

今のを全部移動するということですか？

(A&T 建築研究所)

今照明も音響も操作する部分と別にアンプ、調光器が裏に隠れています。

この中に持ってこれるのは、あくまで操作部分だけで中身まではもってこない。それでもかなり厳しい面積です。資料には総合的検討と書いてあるんですが、その辺をご理解いただきたいと思っております。

(本杉アドバイザー)

断面を見ると、前に人が立ってしまうと少し邪魔になってしまう状況がありえると思うんです。現状の中でこれ以上床を上げられませんし、今の映写室は非常に小さい窓になっているんですが、調整室になればもっと大きな窓が必要になってくる。そうすると、ちょっと不平不満が残るようなものになる可能性がある。

(吹谷委員)

それもまずいですね。

(本杉アドバイザー)

ですが、今より断然よくなります。

(塚原委員)

母子室は前に人が立ったら絶対見えませんよ。

(本杉アドバイザー)

上映中は常に人が立っているということはありませんので、ただ途中で退席する人などの予想はしております。

(空間創造研究所)

本杉先生からご指摘いただいている床の高さの設定ですとか、その辺踏まえていい位置を

考えていただきたいなと思っております。

(A&T 建築研究所)

以上が、要望に対する返答でありまして、まとめますと 1 番と 3 番と 11 番は再度趣旨を確認していただきたい。

それから 2 番、7 番、8 番、9 番、13 番については採用検討するということ。

それから 4 番と 6 番については構造について問題がありまして、14 番につきましては母子室が一つになるということでございます。

その他要望については、従前に前回までにいただいている要望に対しての返答でございます。委員さんの方から新たに受領した分につきましては、同じように返答した上でまた協議の方で報告するという形です。期限がございますのでよろしく願います。

以上です。

(杉山会長)

はい。要望等含めて A&T 建築研究所さんから大・小ホールについて質疑を行なっていましたが、予定の時間になってしまったんですが、その他まだご質問等ある方がいらっしゃいますでしょうか？

(遠藤委員)

振り出しに戻るようで申し訳ないんですが、座席数を 1400 席にこだわるにいたった経過と、次回で良いんですが利用状況。本当に 1400 席必要なのか？MAX で使う頻度がどれくらいあるのかという資料を今ハードの面でよく説明していただいたんですが、ソフトの面でサービスという面で本当に 1400 席必要なのかということが非常に知りたくて。それでもし、舞台の人も聞いている人も、もっとゆったり使い心地が良くなるのであれば 1400 席にこだわる理由が知りたい。そういった資料のお願いというのは出来ますか？

(杉山会長)

あの、大ホールが 1400 席、小ホールが 395 席ということで、皆様よくお使いになる中でこれよりも少なくても良いというような意見もありますか？

そのような意見もありますし、営利でやる方もいますんで有料でやられる方はやはり 1400 席よりなるべく減らしたくないという意見もありまして、今この中で調整をしているというところなんですけれども。

それは今日はどうしましょうか？

(吹谷委員)

やはり、それは我々演奏する側でもお客さんとして、聴衆で行く場合があるんですが、そ

うするとさっき塚原委員がおっしゃってましたとおり、いろいろな演奏団体が来られると。そのチャンスを出るだけ多くの人に共有してもらい、共有すべきだと思うんですね。座席を減らすというのは最後の手段で、やっぱりまずいとは思いますが。

(杉山会長)

文団協さんは、比較的減ってもいいというお考えが多いですか？

(遠藤委員)

窮屈な感じで見るのであれば、もっとゆったりの方が。例えばいつも満席の方が多いということであればその理由もわかるんですが、あまり減多に満席にならないのにそんなに座席数いるのかなと思ってしまいます。

(大野アドバイザー)

ご参考までに申し上げますが、一般のこの地域で活動されている方は、それほど広く、大きくなくてもいいと、環境を良くした方が良いという方もいらっしゃると思うんですけれども、ただですね、ここの会場を借りているイベンターさんたちは逆に座席数を減らされては困るという要望が多いと思います。というのは、やはり少しでも切符を売りたい。興行収益を上げたい。そういうホールを借りるお客さんは座席数が減ることによってものすごく収益が減ることがありますから、特に神奈川、うちなんかの場合は絶対に減らしてもらっては困るということを強くおっしゃいます。そういうイベンターさんたちはより広い会場の方へ移っていくということがあります。そうすると呼びたいけれど、呼べなくなるという事態も場合によっては起こりうると思うんですよ。なので、その辺の所の見極めが非常に難しい事がありますので、よく皆様でご協議の上でお決めになった方がいいと思います。

(杉山会長)

ありがとうございます。では、客席に関してはまた具体的な数等は、委員の方にお知らせいただければと思います。

その他、何かありますでしょうか？

では、次に前回申し上げたと思うんですけれども、文団協さんと茅ヶ崎交響楽団さんから要望頂戴いたしましたけれども、その他、各団体様の方から要望ございましたら、お持ちよりくださいとお願いいたしましたけれども、今日おありの団体様いらっしゃいますでしょうか？

今日は、よろしいですか？

(一同要望なし)

はい。わかりました。

では、引き続き何かございましたら、また次回までにまとめてきていただくようお願いいたします。

では、本日アドバイザーの先生方に今日の何かお気づきの点等ございましたら。

(大野アドバイザー)

特に私の方から申し上げることはございませんけれども、この地域にあった文化活動をいかに積極的に出来るか。施設のあり方に関わっていると思うので、出来るだけこういう機会に。予算が潤沢ではないんでしょうけど、限られた枠の中で、少しでも皆様方の使い慣れやすいホールに再生していただきたいなと思っております。それで、今日説明いただいたハードな面に関しては、私どものご提言したこともちゃんと盛り込まれてますし、ホール運営を維持するように考えると、やはりどうしても落とせないところは必ず入ってますので、その辺はやはり実際実現すればかなり使い勝手は良くなるのではないかと、私は思っております。今後も皆様のご意見を伺いながら、ご相談させていただければと思います。よろしく申し上げます。

(杉山会長)

ありがとうございます。本杉先生よろしく申し上げます。

(本杉アドバイザー)

こういう機会を設けることはとても良いことだと思います。先ほど松永さんがもう決まっていって話し合う意味がないんじゃないかというような印象を持たれたようですが、日常住んでいる木造の建築物と違って非常に大掛かりな建築物は簡単じゃないところがあります。特にホールは容積も多いですし、その分単に構造が難しいだけではなく、建物をいじることによって長期的に見ると、つなぎ目の部分や、継ぎ足した部分とかで雨漏りが生じるとか、不具合が生じてくるというのは多々ございます。出来ることと、出来ないこととに分かれ目が非常に難しいと。ですから、ここは出来ないといわれると、じゃあ何も出来ないんじゃないかという印象をもたれるかもしれませんが、これまで私も2度ほど会合で話させてもらって、感じたことは、市の方たちも建築設計の方も、文化会館の方たちも非常に積極的で、建築に対する提案も非常に前向きなんです。これは非常に、よいことだと思っております。こういうものを、推し進めていくには欠かせないことだと思うんです。ですから、皆さんがこういう場でおっしゃっていただくことを、最初から出来ないんじゃないかと思って言わないじゃなくて、ちゃんと言っていただくことはいいことだと思うんです。もし仮に、出来ないからといって、ほら何も出来ないんじゃないかと思わないでいただきたい。その理由があれば、それをふまえて設計する方たちも、市の方たちも何か



考えると思うんです。問題点だけを言うのではなくて、理由を言っていただくと、そこからまた新しい前向きな考え方が出てくると思うので、是非なぜこうなのかという根拠みたいなものを言っていただくと、前向きな取り組みがもてるのではないかと思います。これから何回かこの会が続くということですが、それに向けての提案が設計者の側からも市の側からも出てくると思いますので、あきらめずに粘り強く言っていただく事がいいと思います。言葉にして言いにくいのであれば、文章で書くのもいいでしょうし、図を今日描いた物だとかを、こういう図面は役所の方も会館の方も持っていると思うので、それで、「ここですよ」とか自分たちで写真を撮って「このこういうところが良くないんです。」とかいっていただけるようになると、非常にわかりやすいと思うんですね。我々も非常に助けになると思うので是非あきらめずに粘り強く協議していく中でよいものが出来ればいいなと思ってます。私も戸塚に住んでおります。隣なので是非いいものが出来ればと思っております。よろしくお願ひします。

(松永委員)

ちょっとよろしいですか？私、展示部門の方で1階を使うんですが、そこは是非大改造をしていただきたいと思っております。たまたま今日県民ホールのほうで県民の美術展の書道の部門で大賞をいただきましてそのお礼も兼ねて。

(杉山会長)

ありがとうございます。大野先生、本杉先生ありがとうございました。本当に日々皆さん使っていらっしゃる、文化会館をご利用なさってる方たちですので、次回の会、むしろ私は毎日ホールにいますので、忘れそうなこともメモして持ってきていただければ、また協議会にあげることも出来ますので、是非ご意見よろしくお願ひいたします。

では、事務局の方から何かございますでしょうか？

(事務局)

はい。それでは、次回の場所変更がございましたので、そのお知らせをさせていただきます。10月9日が第3回目の協議会になりますが、10月9日金曜日14:00~16:00まで分庁舎E会議室と記載されていましたが変更になりました。勤労市民会館。市役所ではなく勤労市民会館なんです、そちらの3階B研修室です。もし場所等おわかりにならないようでしたら、事務局の方にお越しく下さい。時間は同じです。よろしくお願ひします。

(杉山会長)

はい。ありがとうございます。  
その他、よろしいでしょうか？

では、その他特に無いようなので、これにて本日の協議会を終了いたします。予定時間過ぎてしまいましたが、長時間にわたる御協議お疲れ様でした。ありがとうございました。